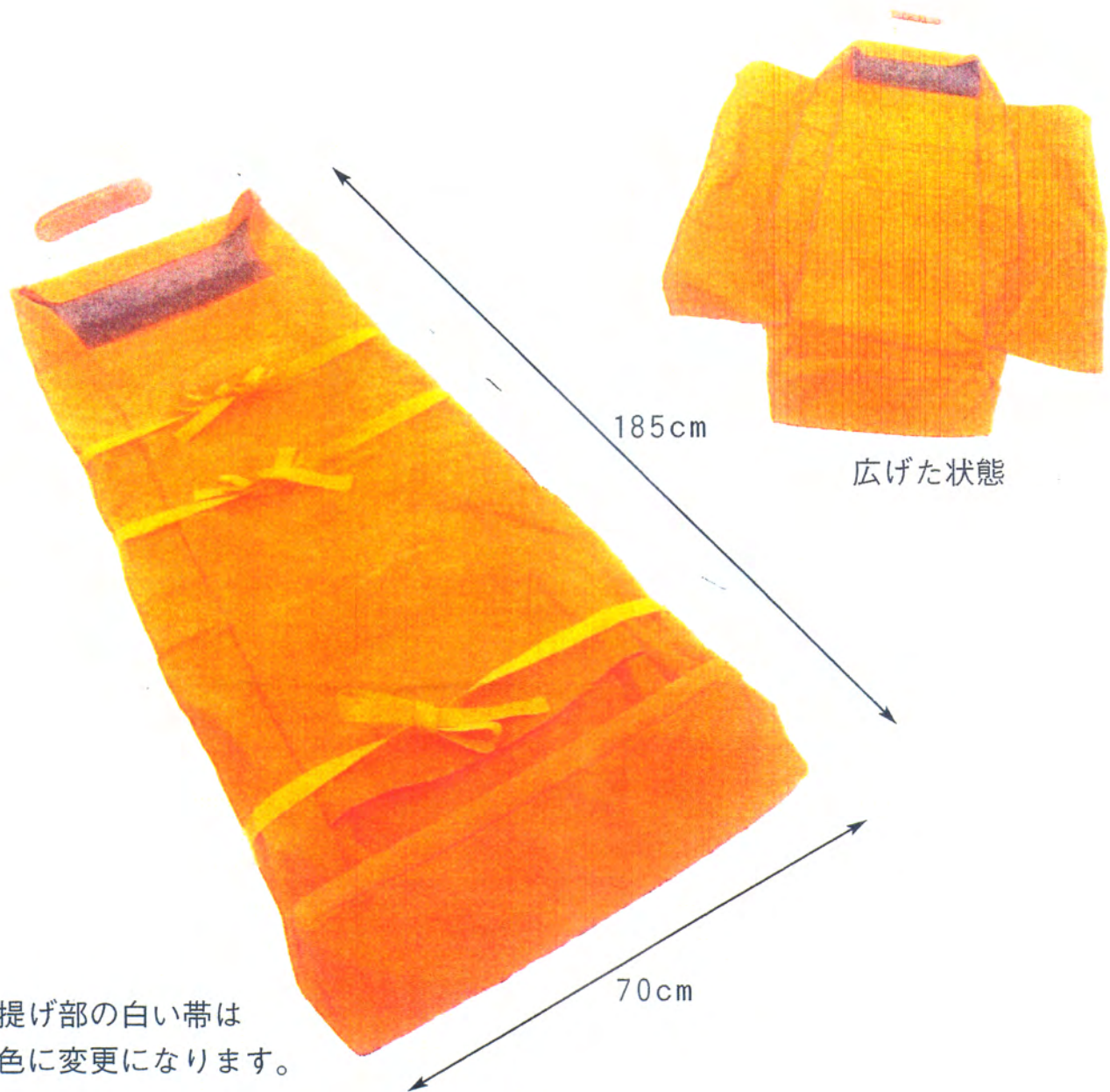
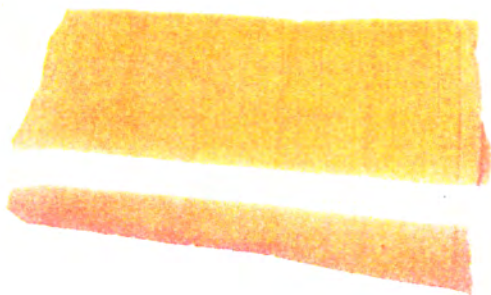


なぎさ防災会発案・布担架

製造・販売：東京葛飾福祉工場



手提げ部の白い帯は
黒色に変更になります。



たたむと小さくなります



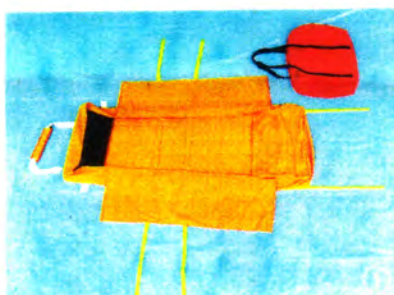
収納袋に入れた状態



収納袋

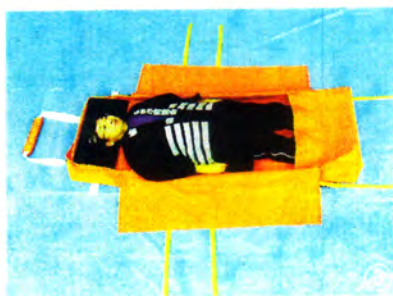
1セット 36,000,-

なぎさ防災会発案 布担架 ～使用方法～

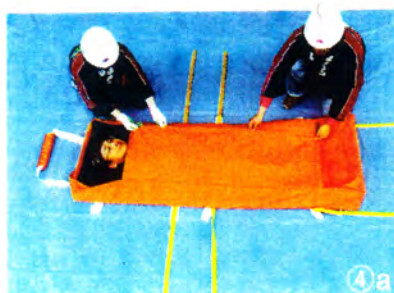


①布担架を広げます。覆い布、
縛り紐もすべて広げます。

②a.頭部分のクッション(黒色)
位置、b.足部分の板の位置を確認。
足板は階段で斜めになった
ときに、足が抜け落ちないよう
に感じさせるために必要です。



③運ぶ人(救護者)を乗せます。
腕は組まず、身体の手で伸ばす
ようにします。履物や持ち物は
内ポケットのマジックテープ部
を開いて入れてください。



④a.運ぶ人(救護者)の胸から下
を覆うように左右の布をかぶ
せ、b.3箇所ある縛り紐できつ
くならないように軽く縛ります。
(布で覆い、紐で縛ることで普
通の担架より安心感が生まれま
す。)



⑤搬送者として左右に各2名ずつ、頭側に1名、合計5名が立ちます。

⑥左右の搬送者は、幅の広い白い搬送者用紐(左右に4、合計8ある)2つの中心に立ち、両手を紐の外側からくるぶしまで入れ、抜けないようにして布担架本体底部分の布をつかみます。くるぶしまで入れることで、疲れても簡単に抜けないため、離してしまう危険が減ります。

⑦頭部側搬送者は金具で頭部側に繋いである肩掛け状の紐を首にかけます。斜めがけにするとより安定します。

⑧5人が声を掛け、一斉に静かに持ち上げて搬送します。曲がる時や止まる時など、いつも声を掛け合って安全を確認しながら動くことを心がけましょう。

⑨頭部側搬送者は、運ぶ人(救護者)の表情を確認したり、声をかけながら他の搬送者に状況を知らせます。

⑩階段では頭部側を常に高い方にします。

⑪降ろすときは、全員が声を掛けあい、静かにショックのないように気をつけます。

※女性の救護者の場合、降ろす際に裾の乱れが気になることがあるので、バスタオルを布担架に入れておくといよいでしょう。

布担架は高層階からの階段搬送を目的に開発しました。しかし、なぎさ防災会では平成17年7月23日の千葉県北西部地震(震度5弱)でエレベーターが長時間停止した際、外出して戻って来た車椅子の女性が部屋に戻れないため、布担架隊が出動して8階の住戸まで搬送しました。「降ろす」だけでなく、「登る」時にも使用できることに注目してください。

発案：なぎさ防災会 〒134-0085 東京都江戸川区南葛西7-1-21 なぎさニュータウン管理組合事務局内
Tel: 03-3688-0771 Fax: 03-3688-0518

製造：東京都葛飾福祉工場 〒125-0042 東京都葛飾区金町2-8-20
Tel: 03-3608-3541 Fax: 03-3608-5200